



2022年3月期

決算説明会用資料

2022年5月24日

RHEON[®]

レオン自動機株式会社

RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

証券コード（ 6272 ）

この度は、弊社米国子会社である「オレンジベーカーリー」において不適切な会計処理が発生し、第1四半期決算および第2四半期決算の修正をいたしました。皆様におかれましては、大変ご心配をお掛けいたしまして誠に申し訳ありませんでした。

状況としましては、在庫を過剰計上したことで利益を黒字に見せかけたものであり、今後このようなことの無いように徹底的に調査するため、第三者委員会を設置し、その報告書をもって再発防止策を立てました。

詳細につきましては、「第三者委員会の報告書」および「再発防止策」として、東証ならびに弊社HPに掲載いたしましたので閲覧のほどよろしく願います。

1. 2021年度 連結決算概況
2. 2022年度 連結業績予想
3. 中期経営計画 進捗状況
(2018年度～2022年度)
4. サステナビリティへの取り組み

1. 2021年度 連結決算概況
2. 2022年度 連結業績予想
3. 中期経営計画 進捗状況
(2018年度～2022年度)
4. サステナビリティへの取り組み

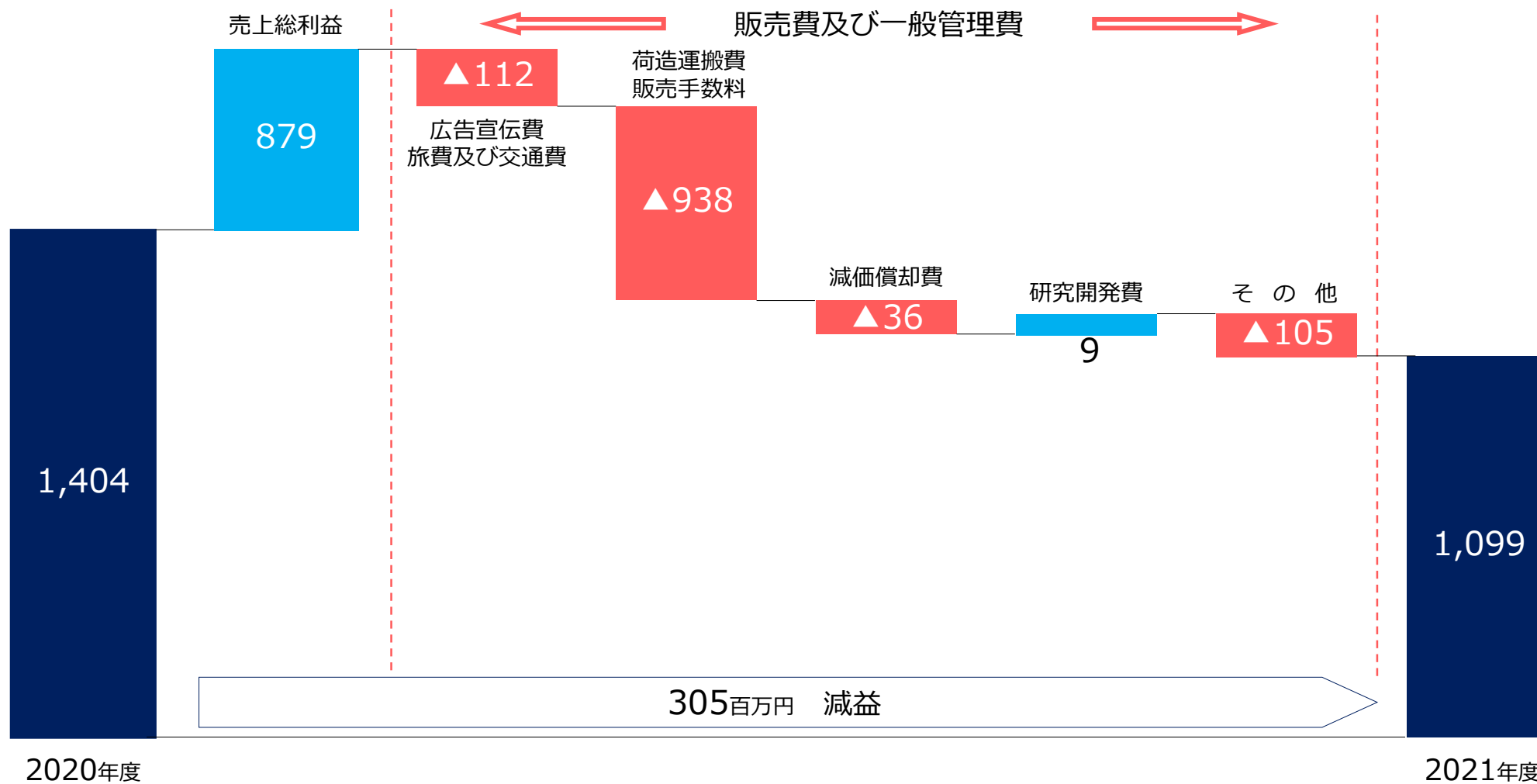
連結計算書サマリー

(百万円)	2020年度 実績	2021年度 計画 (2022年3月11日)	2021年度 実績 ※1	前年比
売上高	22,280	26,560	26,585	19.3 %
営業利益	1,404	1,110	1,099	▲ 21.7 %
経常利益	1,622	1,320	1,468	▲ 9.5 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,608	930	1,486	▲ 7.6 %
ROE	6.3 %	—	5.4 %	—
EPS	60.03 円	34.70 円	55.47 円	—
配当	17.00 円	未定	16.00 円	—

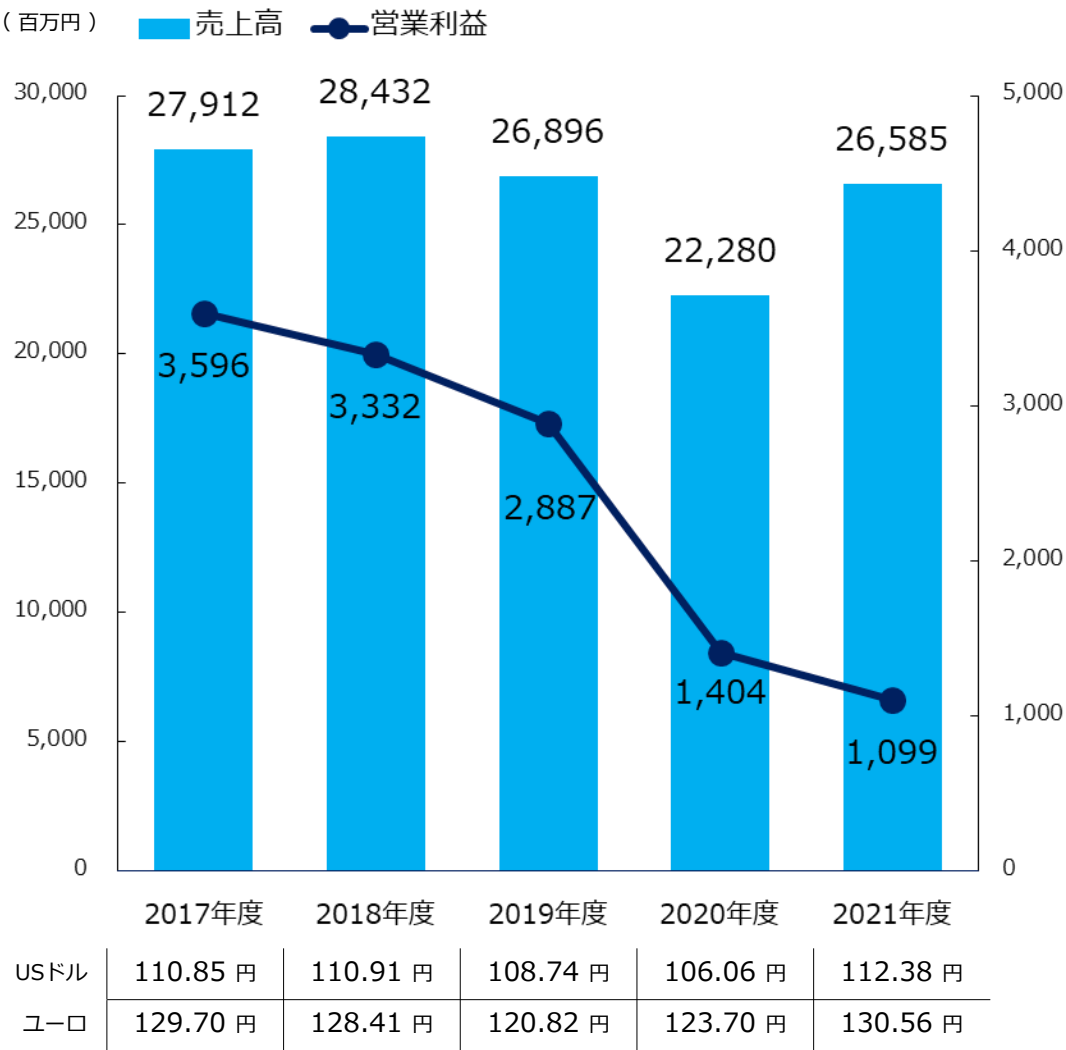
※1 期中平均為替レート : USドル = 112.38 円 ユーロ = 130.56 円

営業利益増減

(百万円)

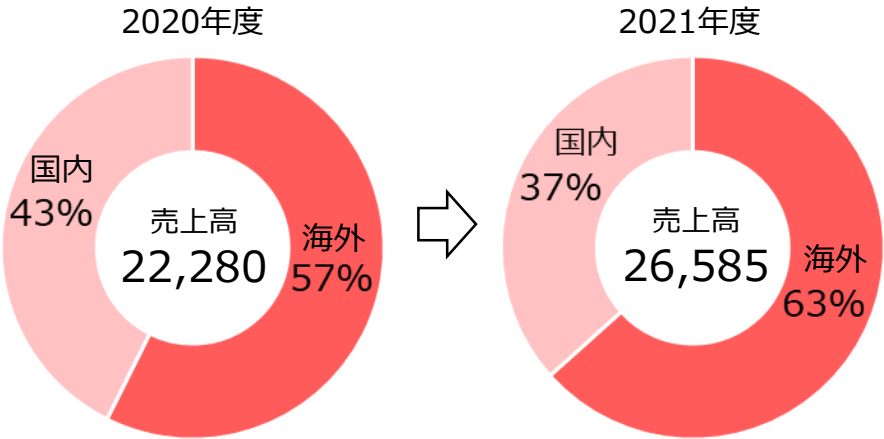


過去5年の業績推移

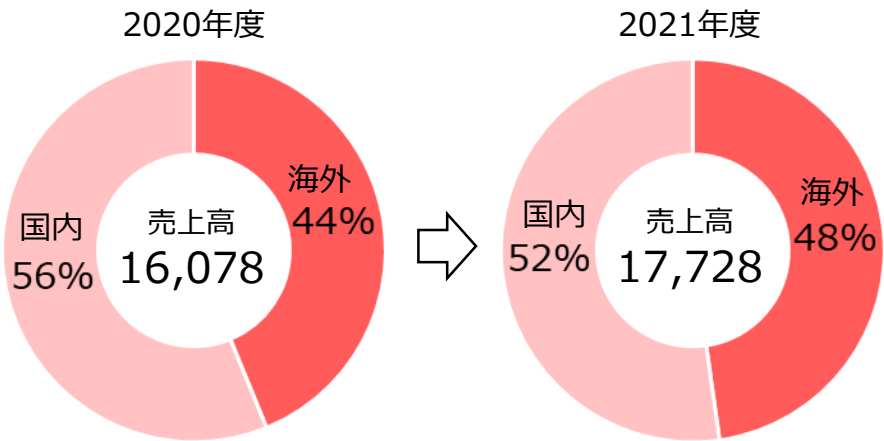


(百万円)

連結国内外売上高比率



食品加工機械製造販売事業 国内外売上高比率



食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《事業別売上高・セグメント利益》

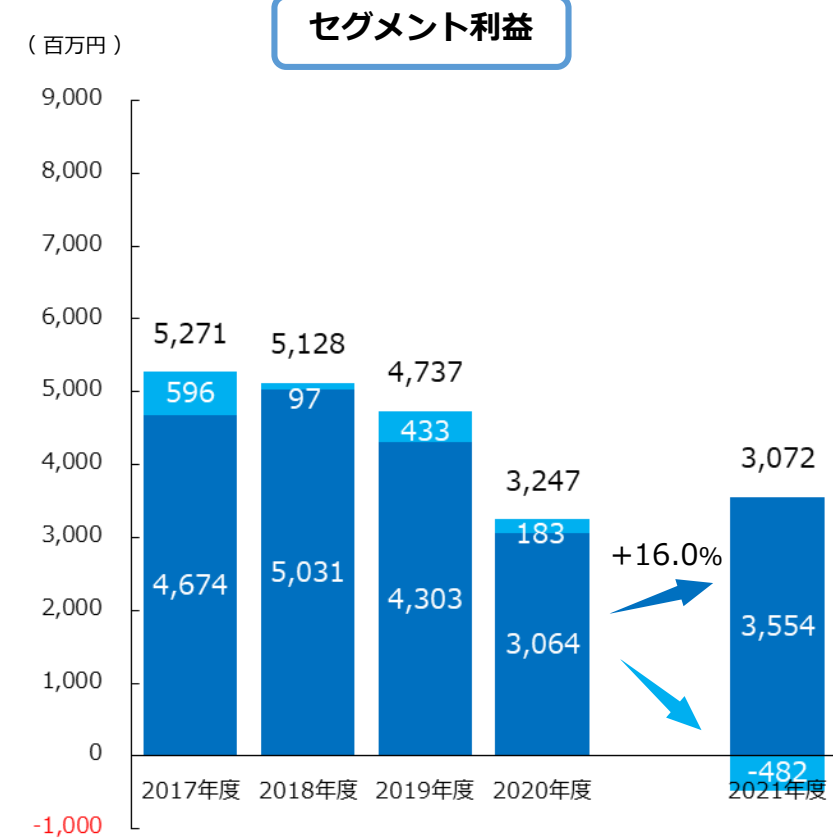
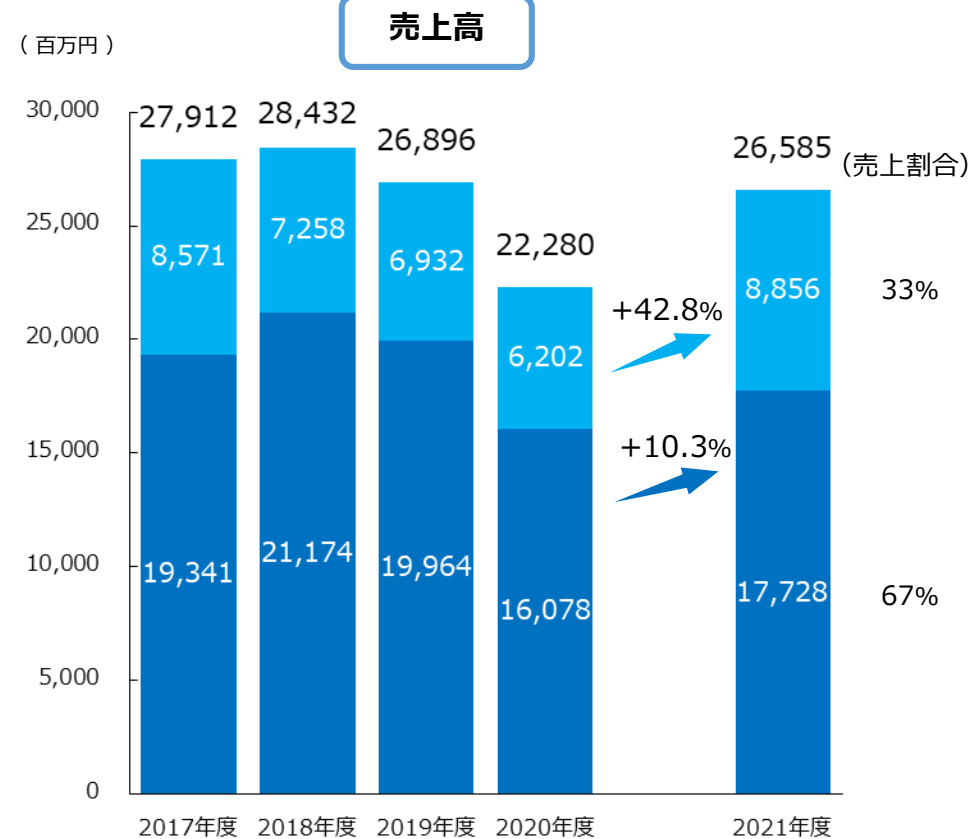
食品加工機械製造販売事業

海外を中心に経済が回復し、設備投資が増加。

食品製造販売事業

米国の経済が回復してきたが、原材料や荷造運搬費の高騰が収益に大きく影響。

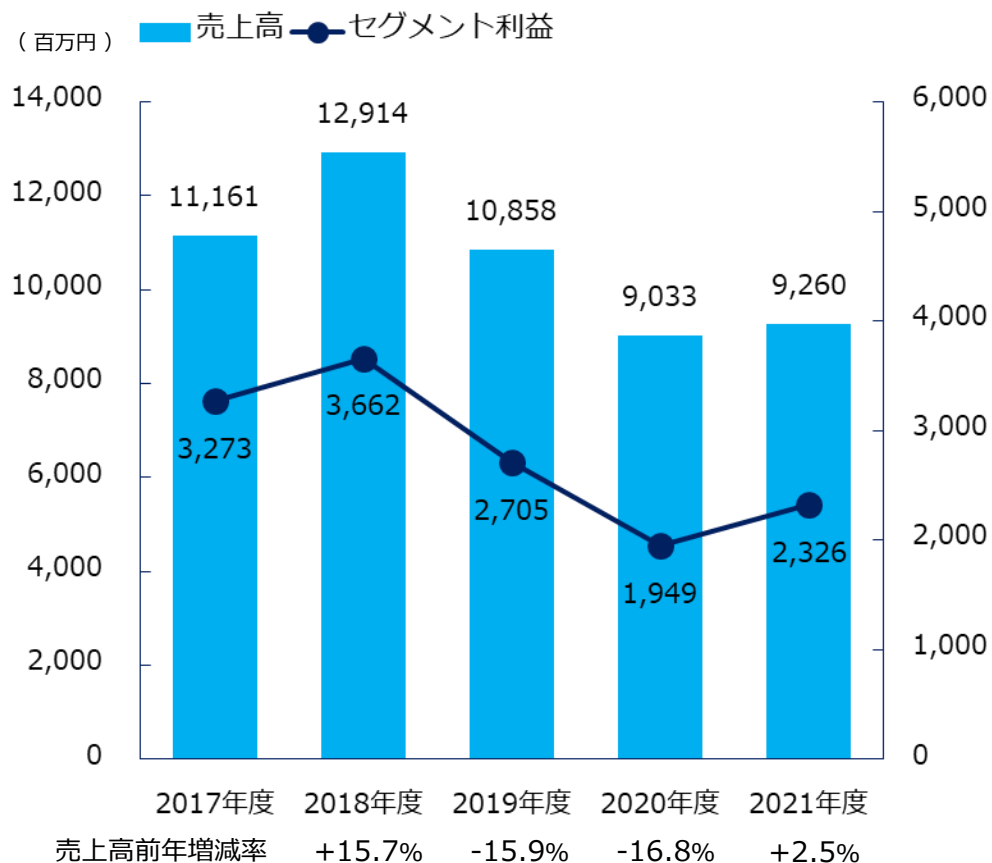
■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業



食品加工機械製造販売事業 日本《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

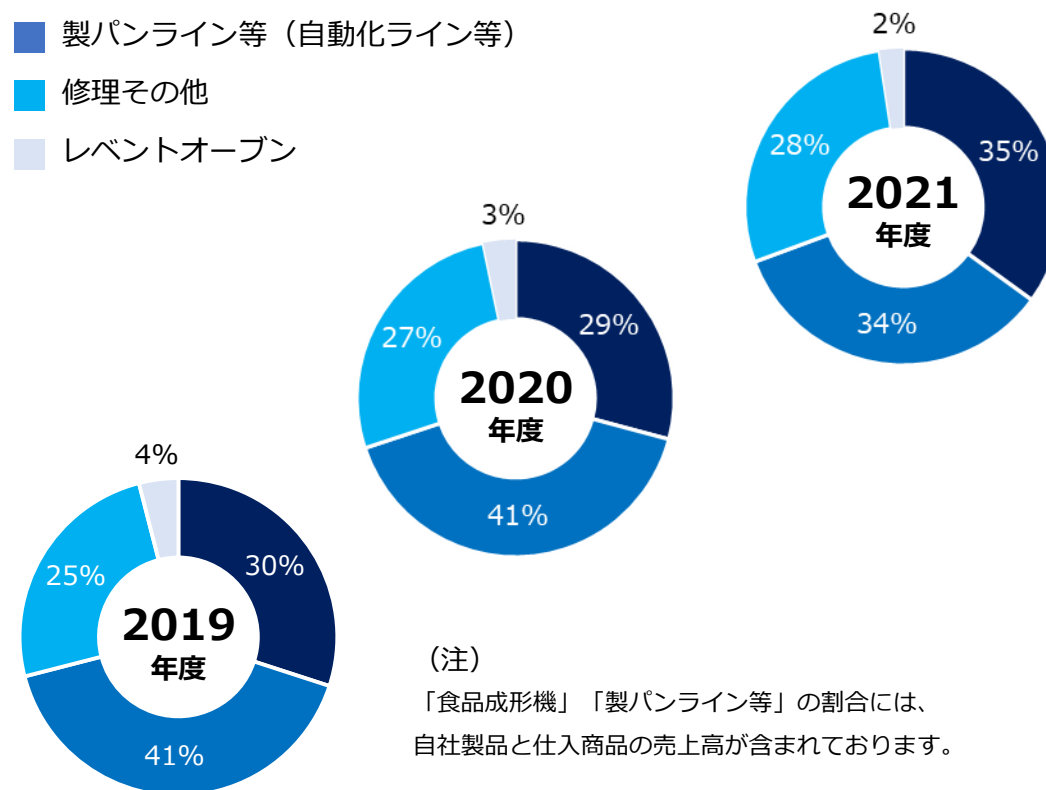
- ・観光土産や外食産業の低迷が続くが、スーパーやコンビニ関連の投資は増加。
- ・自動化ラインは減少するものの、包あん機などの単体機は増加。

売上高・セグメント利益



売上高内訳

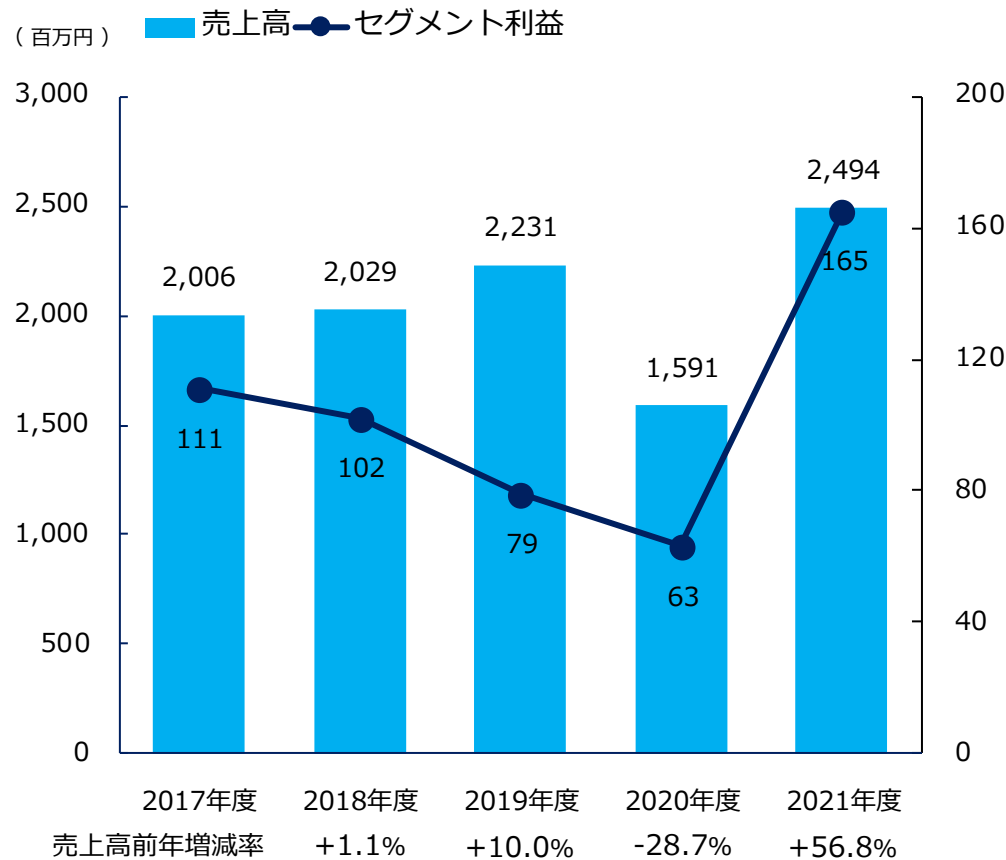
- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他
- レベントオープン



食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

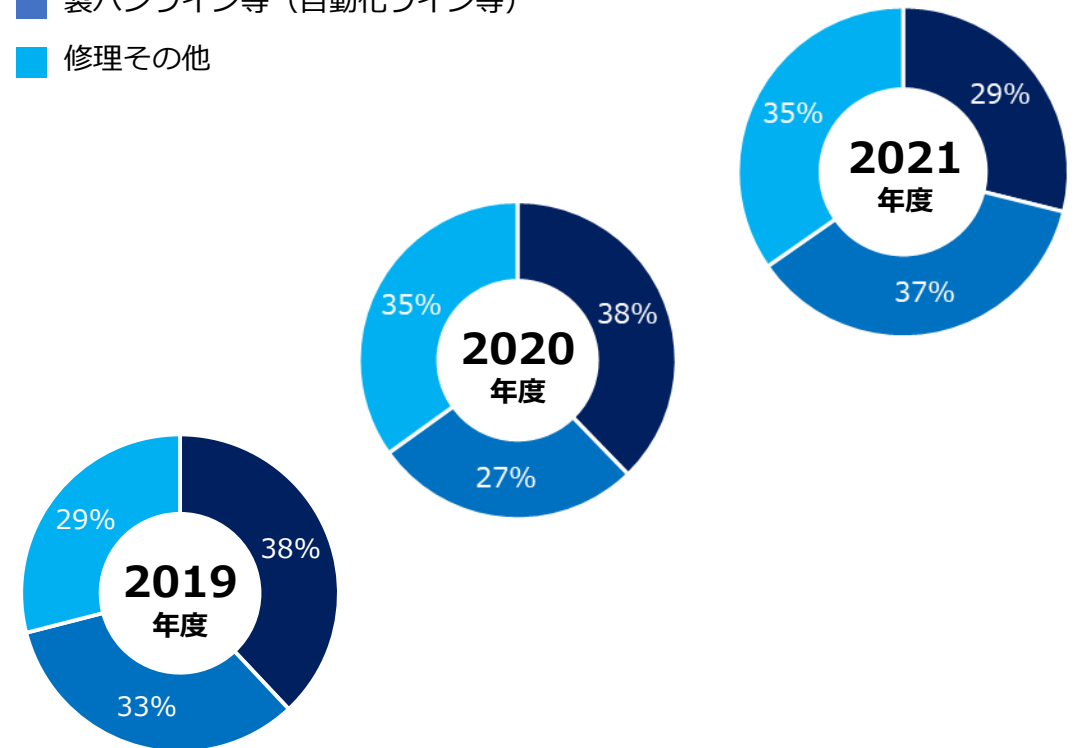
- ・ 金融緩和政策のもと物価上昇が続くが、労働力不足や生産コスト削減に向けた設備投資が活発化。
- ・ 既存機械の稼働も上がり、メンテナンスの売上げ増が利益に貢献。

売上高・セグメント利益



売上高内訳

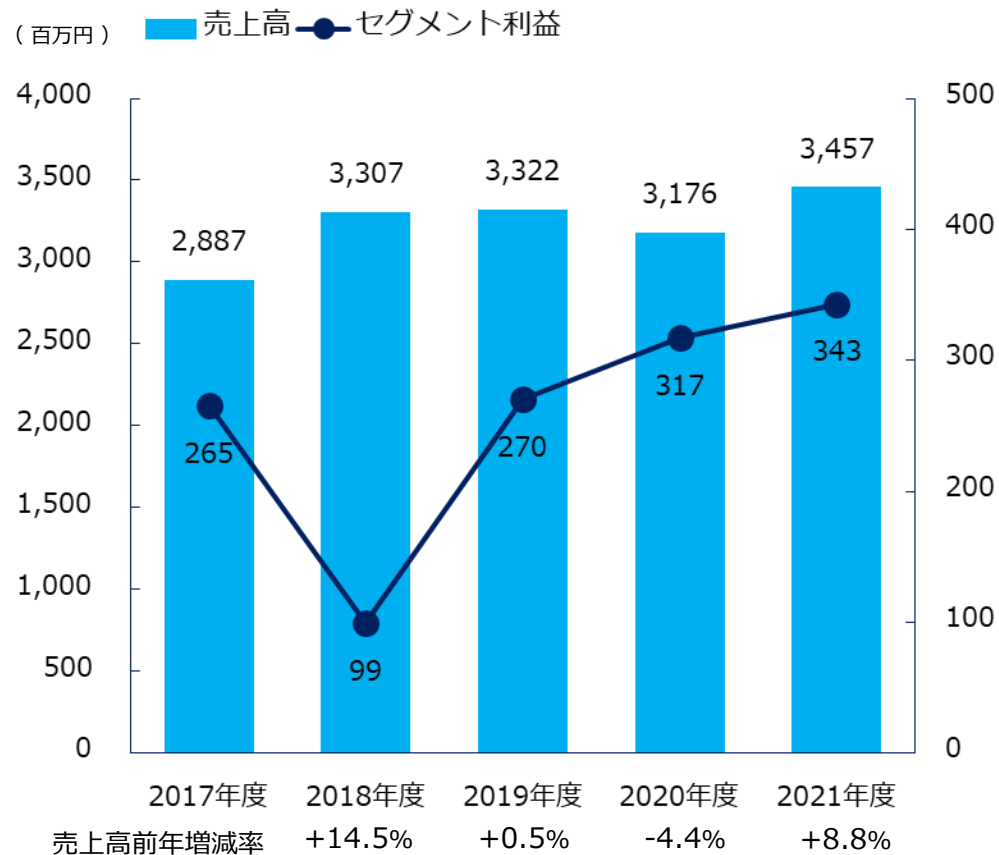
- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他



食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

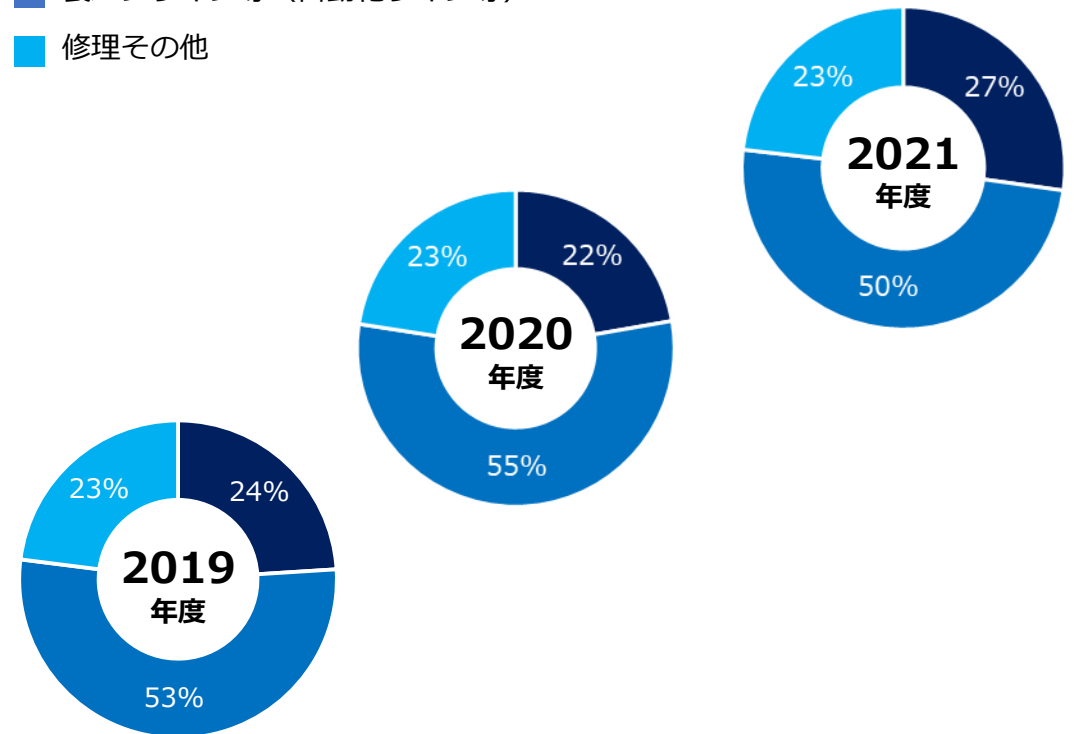
- ・自動化ラインは、主力モデルである小型製パン機の販売が好調。
- ・包あん機などの単体機は、スーパーマーケット需要が堅調で全体的に売上が増加。

売上高・セグメント利益



売上高内訳

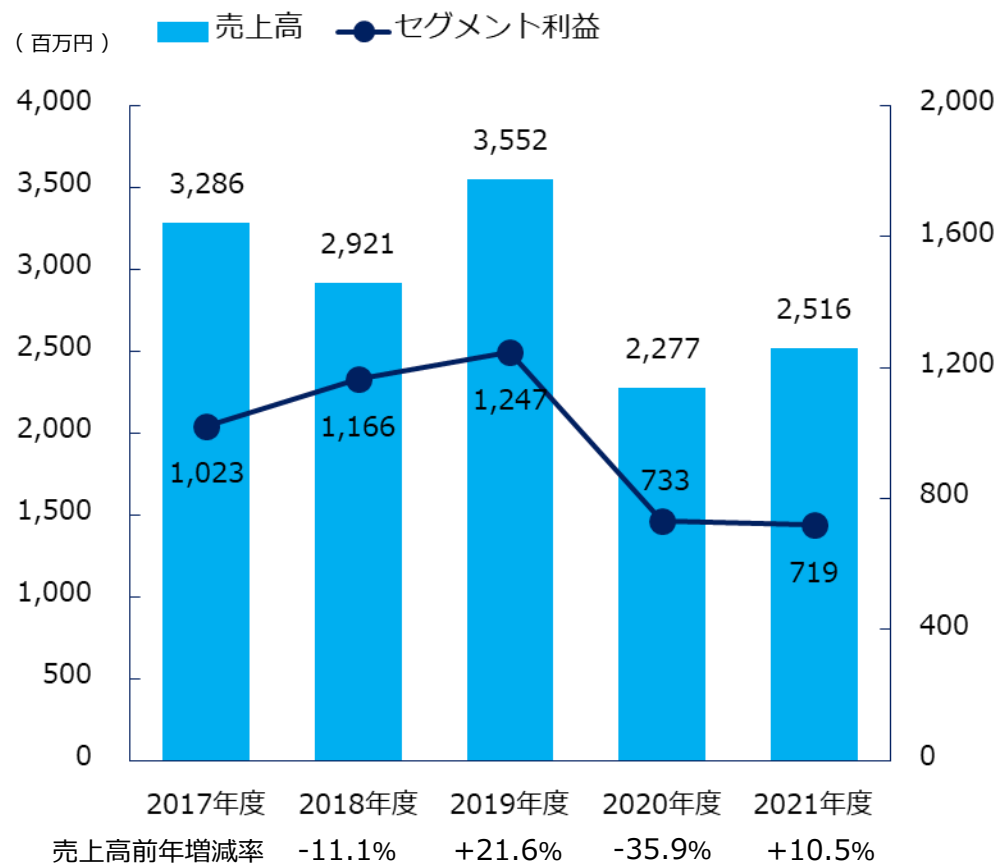
- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他



食品加工機械製造販売事業 アジア 《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

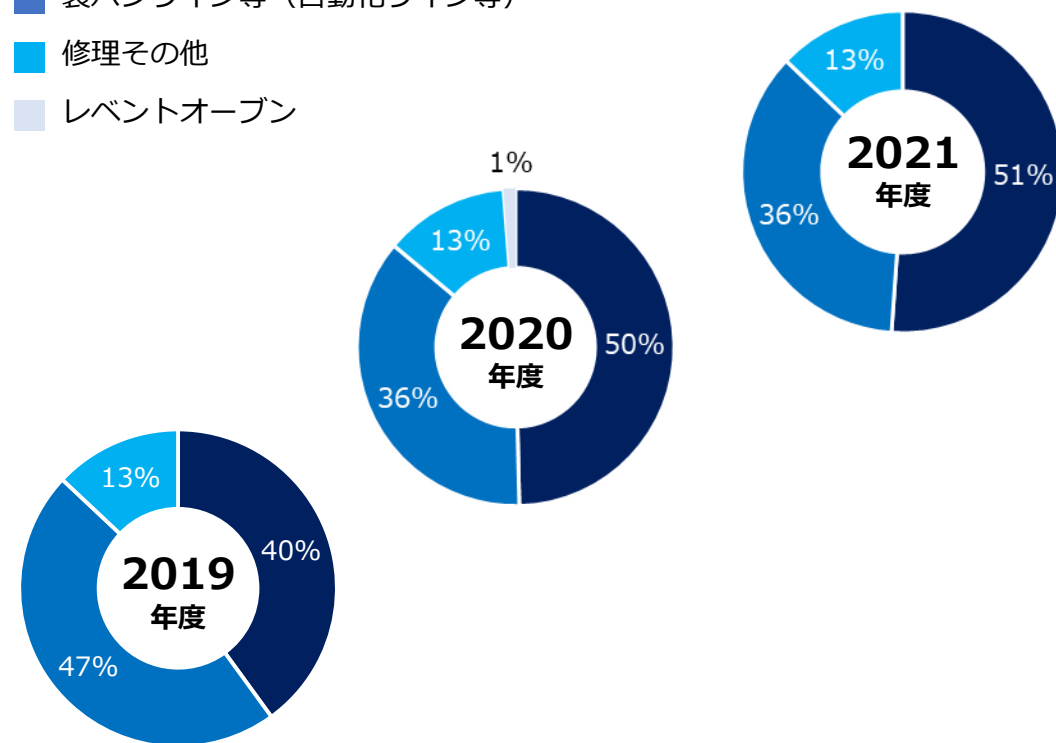
- ・ 中国での自動化ラインの大幅増加をはじめ経済が回復。
- ・ 現地代理店による活動が活発化し売上が増加。

売上高・セグメント利益



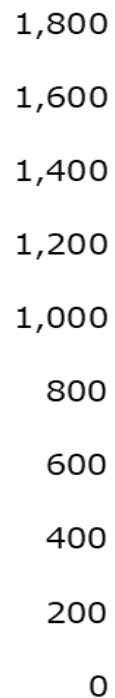
売上高内訳

- 食品成形機（包あん機等）
- 製パンライン等（自動化ライン等）
- 修理その他
- レベントオープン

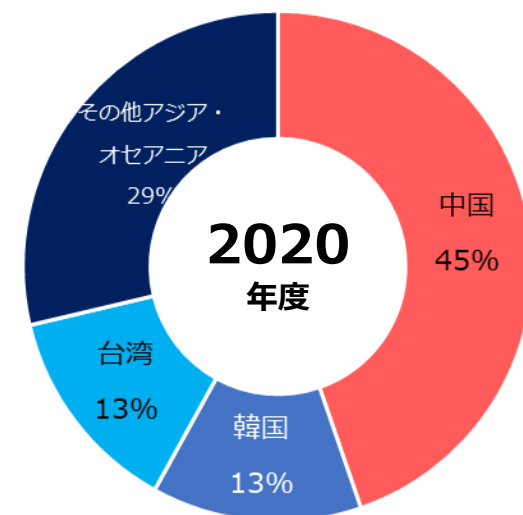
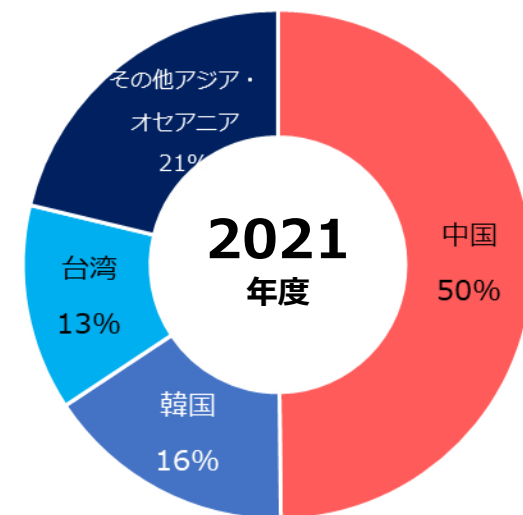


アジア国別 売上高推移

(百万円)



	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
中国	660	690	937	922	1,335	1,550	1,489	1,018	1,253
韓国	305	213	355	593	509	208	569	303	399
台湾	246	222	182	182	559	354	528	302	329
その他 アジア・オセアニア	439	692	600	754	881	809	964	653	534



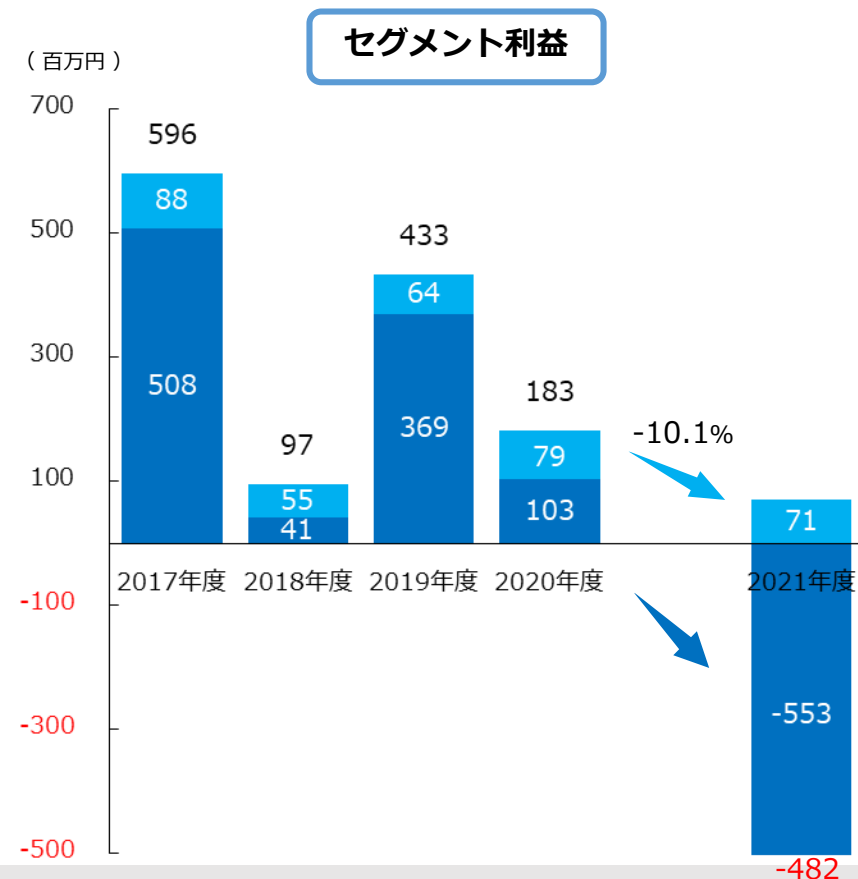
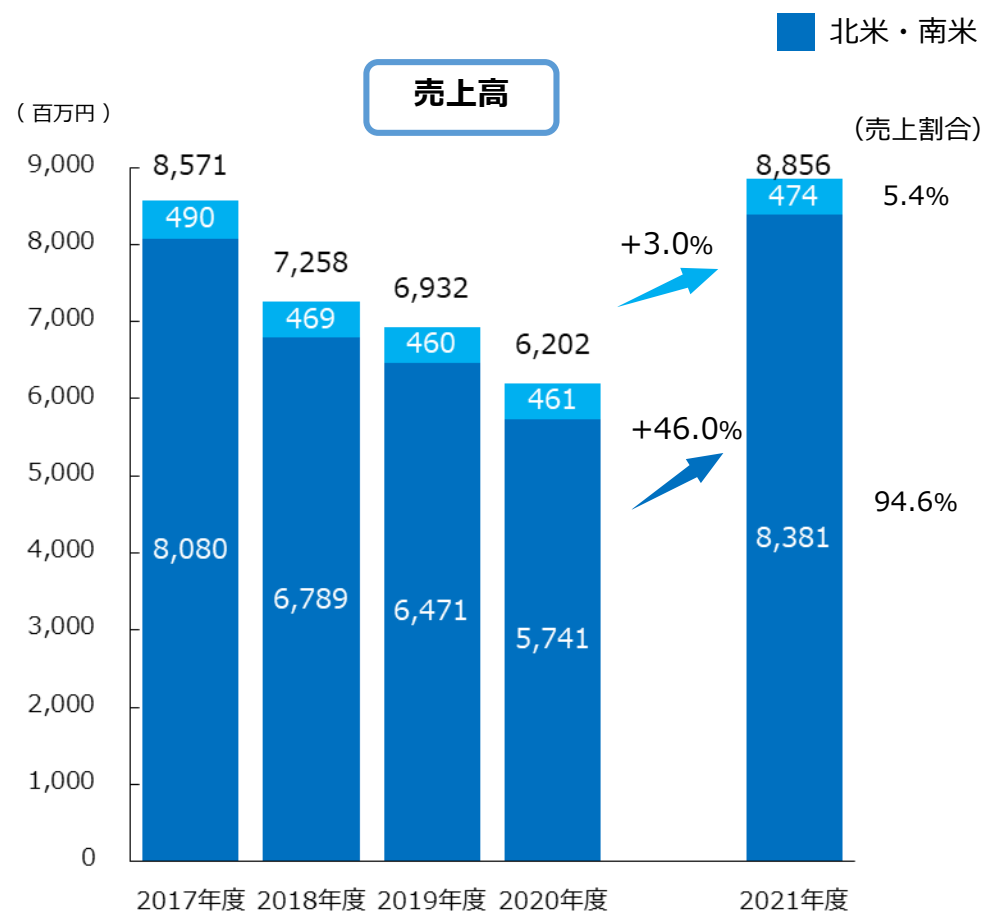
食品製造販売事業 《地域別売上高・セグメント利益》

売上高

- 北米・南米：経済の回復により需要が大きく増加し、新規顧客も増加。
- 日本：大手製パン業者と大手問屋が伸び悩む。

セグメント利益

- 北米・南米：急激なインフレの進行により、原材料費、運送費などが軒並み高騰し利益を圧迫。
- 日本：原材料費などが高騰し利益落ち込む。



連結貸借対照表サマリー

(百万円)	2020年度		2021年度			
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減率 (%)	主な増減要因
資産合計	34,124	100 %	36,651	100 %	7.4 %	—
流動資産	16,961	49.7 %	19,792	54.0 %	16.7 %	● 現金及び預金の増加 ● 仕掛品の増加 など
固定資産	17,163	50.3 %	16,859	46.0 %	▲1.8 %	● 減価償却が進んだことにより固定資産の減少 など
負債合計	7,492	22.0 %	8,274	22.6 %	10.4 %	—
流動負債	5,078	14.9 %	6,274	17.1 %	23.6 %	● 支払手形及び買掛金の増加 ● 前受金の増加 など
固定負債	2,413	7.1 %	1,999	5.5 %	▲17.2 %	● 長期借入金の減少 ● 繰延税金負債の減少
純資産合計	26,632	78.0 %	28,377	77.4 %	6.6 %	● 利益剰余金の増加 ● 為替換算調整勘定の増加
負債純資産合計	34,124	100 %	36,651	100 %	7.4 %	—

連結キャッシュ・フローサマリー

(百万円)	2020年度	2021年度	主な増減要因
現金及び現金同等物の 期首残高	4,820	7,484	—
営業活動によるC F	2,715	3,648	● 税金等調整前当期純利益 1,438 ● 減価償却費 1,124 ● 法人税等 ▲372
投資活動によるC F	▲573	▲748	● 有形固定資産の売却 285 ● 有形固定資産の取得 ▲1,014
財務活動によるC F	380	▲565	● 長期借入れによる収入 350 ● 長期借入金返済 ▲321
現金及び現金同等物の 増減額	2,663	2,515	—
現金及び現金同等物の 期末残高	7,484	10,000	—

1. 2021年度 連結決算概況
- 2. 2022年度 連結業績予想**
3. 中期経営計画 進捗状況
(2018年度～2022年度)
4. サステナビリティへの取り組み

2022年度 連結業績予想

経済は回復しており、増収・増益を見込むが、コロナ感染症やウクライナ問題もあり、先行きの不透明感が強い。

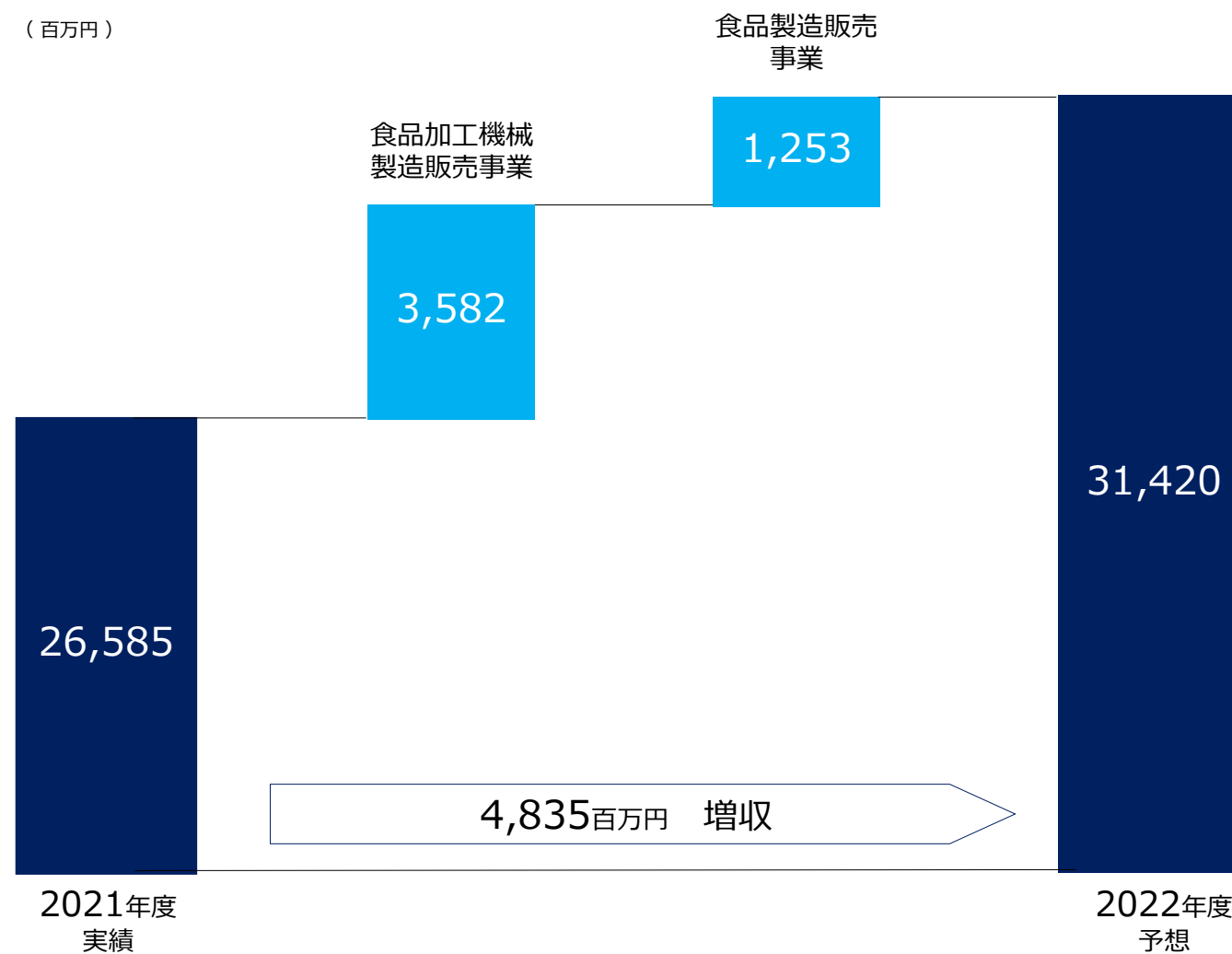
(百万円)	2021年度 実績 ※1	2022年度 予想 ※2	前年同期比	増減率 (%)
売上高	26,585	31,420	+4,835	18.2 %
売上原価	15,783	18,280	+2,497	15.8 %
販管費	9,701	10,600	+899	9.3 %
営業利益	1,099	2,540	+1,441	131.0 %
経常利益	1,468	2,550	+1,082	73.7 %
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,486	2,190	+704	47.3 %

※1 期中平均為替レート : USドル = 112.38 円 ユーロ = 130.56 円

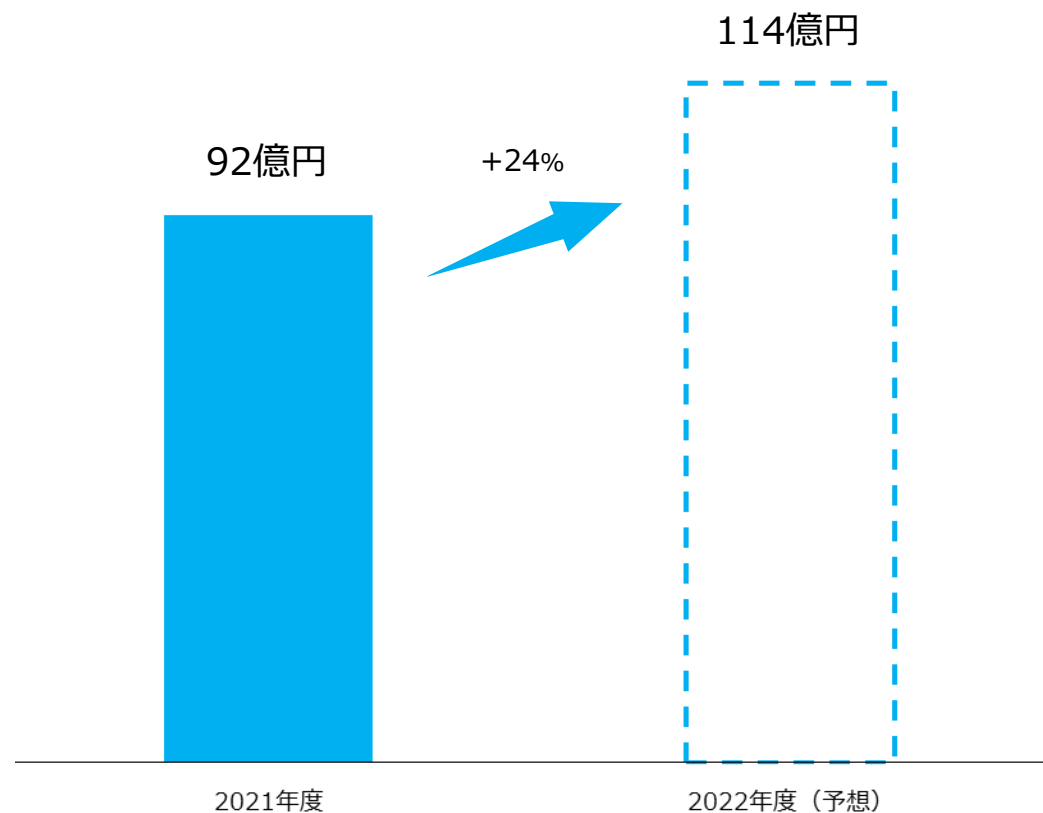
※2 想定為替レート : USドル = 120.00 円 ユーロ = 130.00 円

2022年度 売上高の見通し

(百万円)

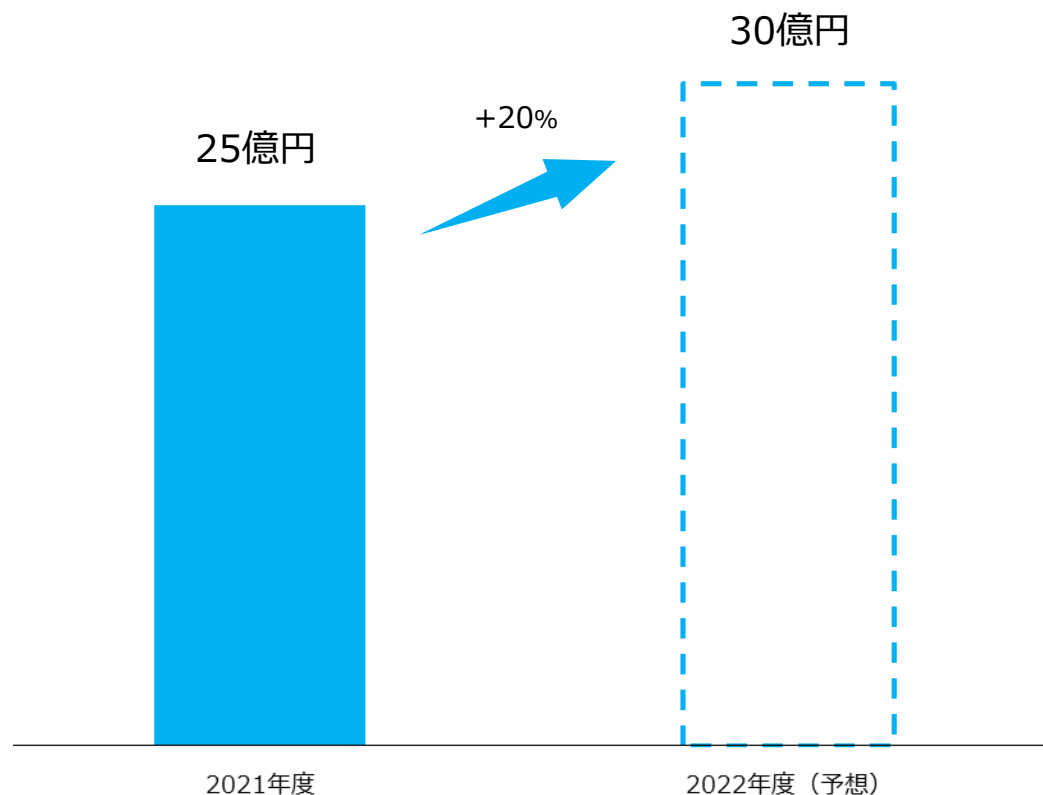


売上高予測



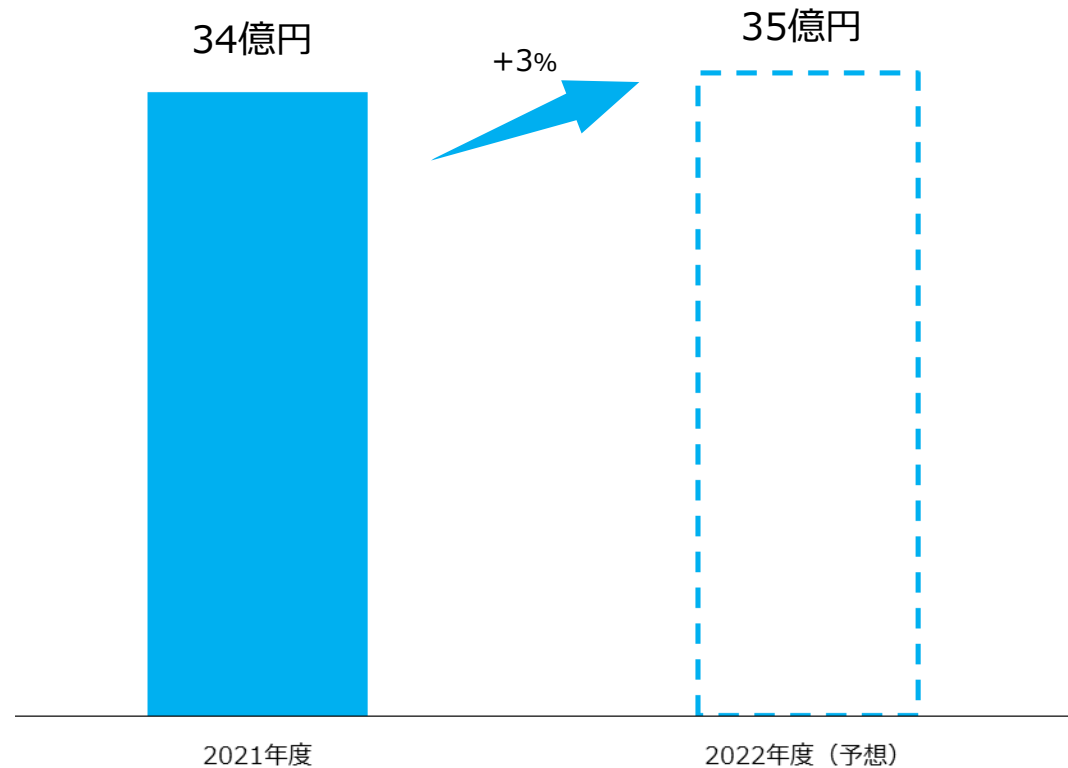
- 製パンを中心としたスーパーの内製化やコンビニの新商品化
- 調理食品業界や菓子業界の生産合理化などによる設備投資が継続
- 包あん機を主体とした単体機は観光土産業界の回復が不透明なことから伸び悩むと推測

売上高予測



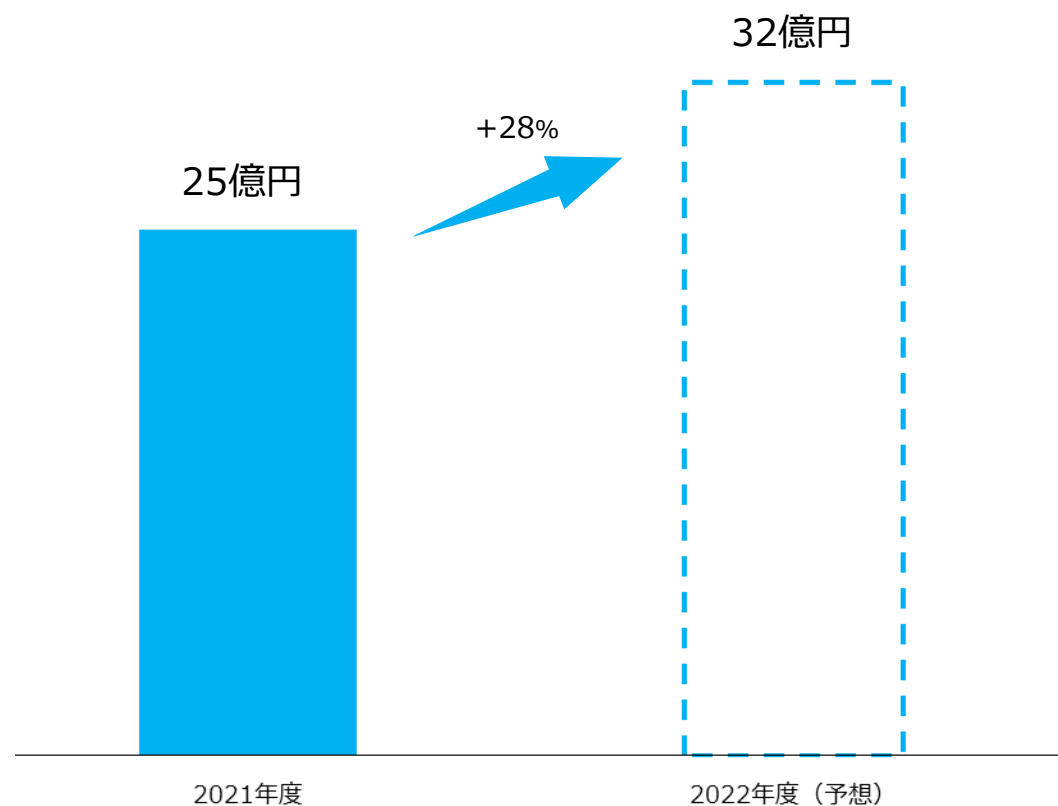
- 労働力不足や生産コスト削減に向けた設備投資の機運が継続
- 自動化ラインでは、アルチザンベーカリーを対象とした市場やメキシコ発祥のパンのコンチャ市場などへの活動を強化
- 包あん機の需要は、菓子の他、調理食品業界への進出により増加の見込み

売上高予測



- 人件費の高騰や消費者の衛生意識の高まりにより、自動化への要望が強まる
- 自動化ラインは、大型案件の販売を強化
- スーパー向けのスコッチエッグやクノーデル等の調理食品を生産する包あん機は安定した売り上げを維持
- 代理店との連携を強化

売上高予測



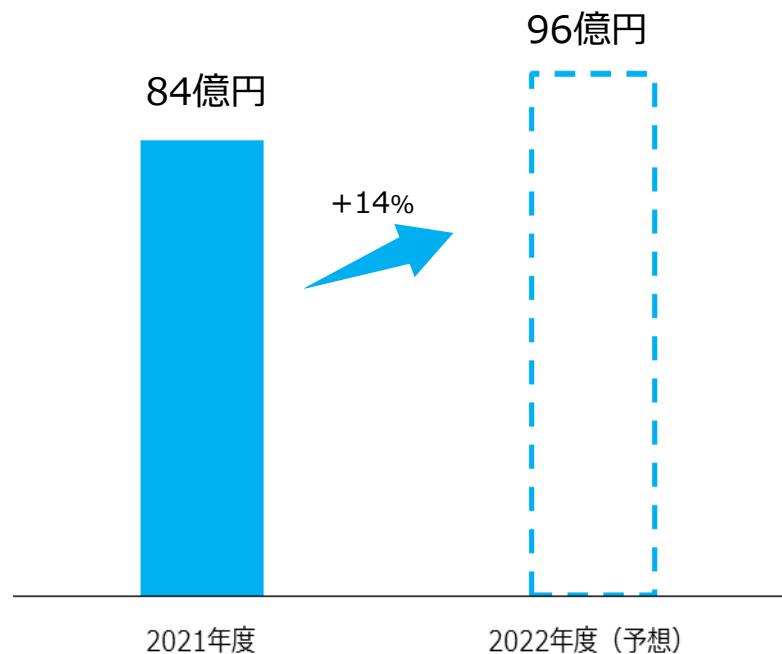
- 中国
 - ・ 従来のベーカリー市場の拡販や、月餅を生産する包あん機市場の拡販
 - ・ 加工食品業界への進出のため、代理店の開拓やコンビニ、ネット販売、健康商品関連の新規開拓
- インド・東南アジア市場の拡大

事業別業績予想 食品製造販売事業

北米・南米（オレンジベーカリー）

- ・ 不採算製品の整理
- ・ 自動化による生産性の効率と適正な値上げ

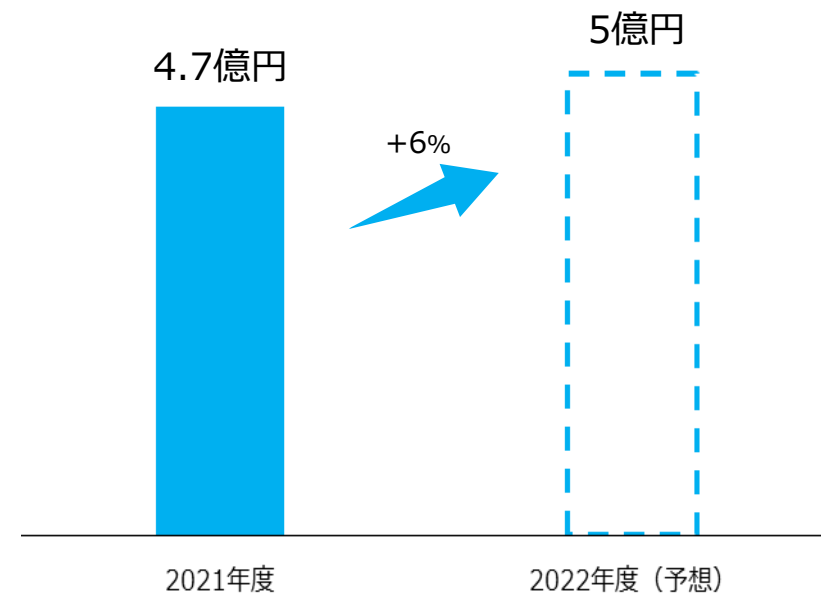
売上高予測



日本（(有)ホシノ天然酵母パン種）

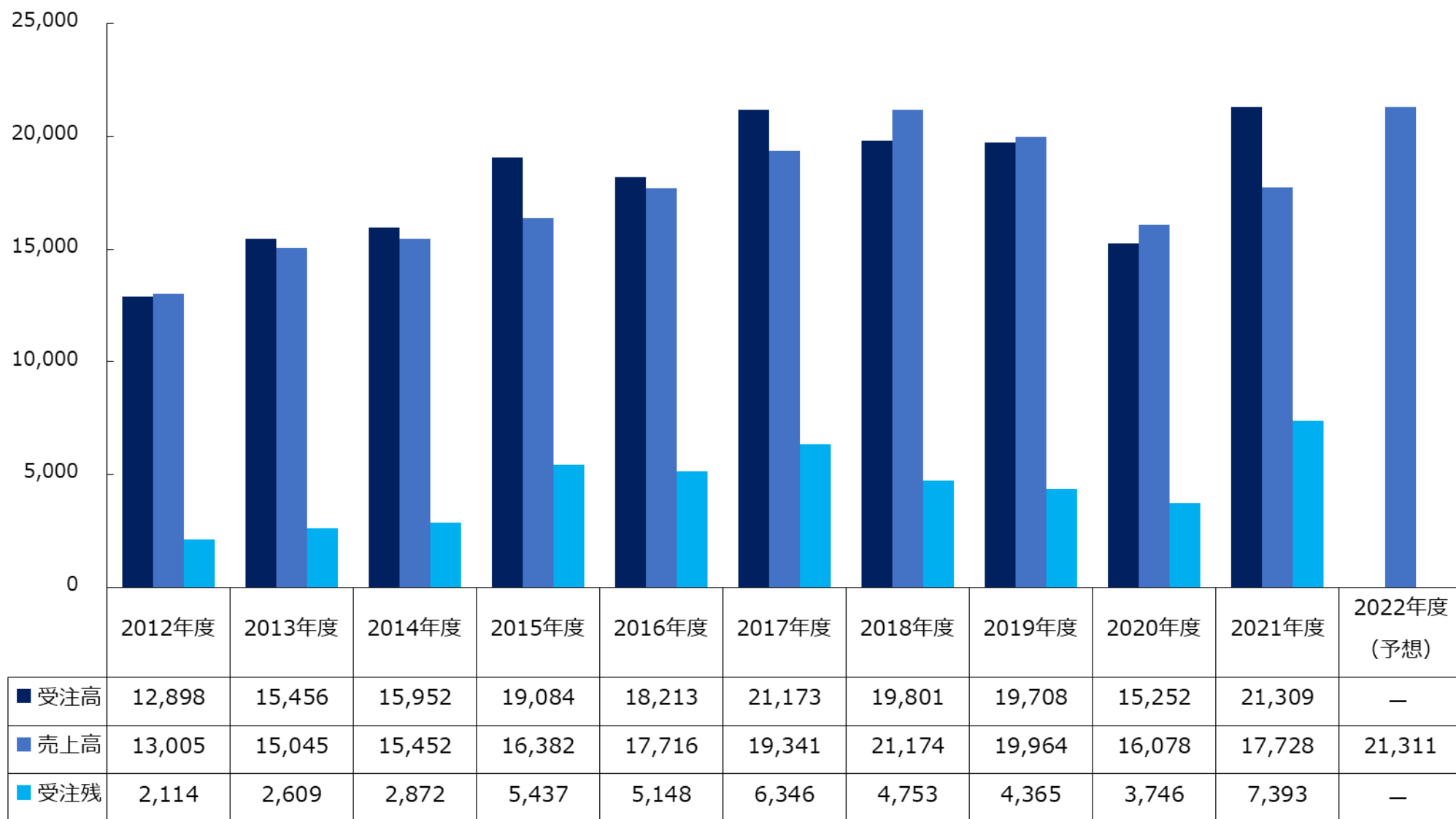
- ・ ホシノパン種を使用したホイロ後冷凍パン
- ・ 洋菓子店などへの販路拡大

売上高予測



食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移

(百万円)



設備投資額・減価償却費・研究開発費

2021年度

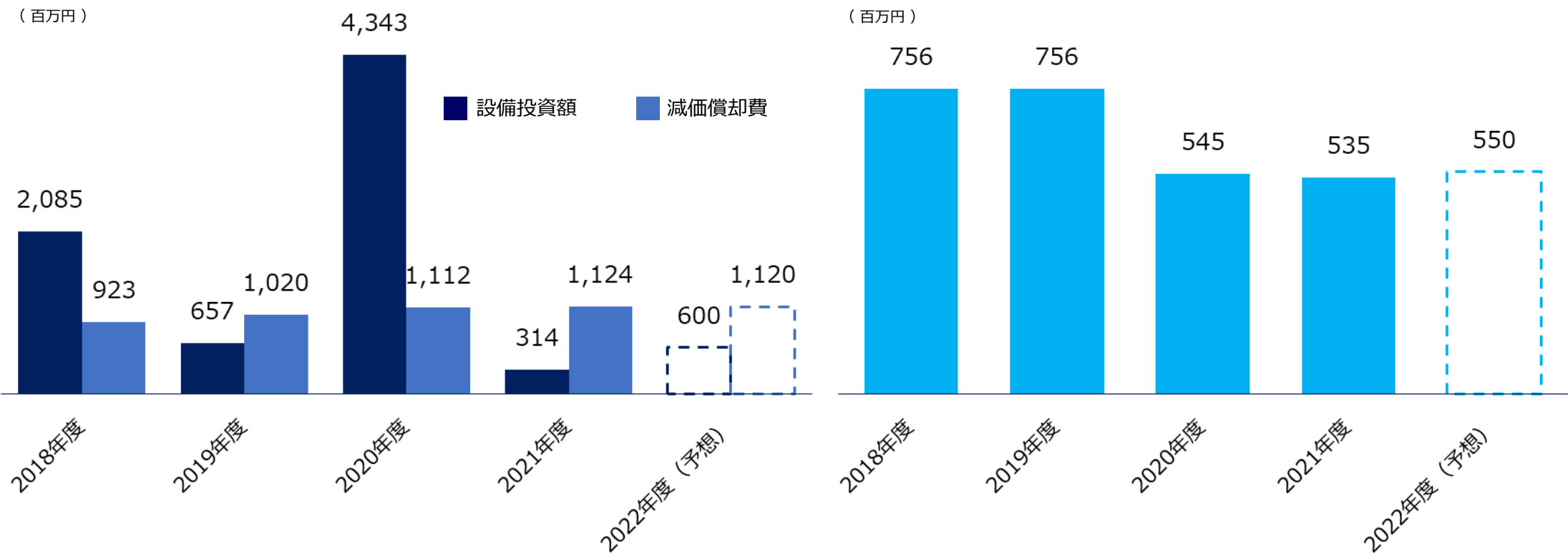
厳しい経営環境のもと設備投資は、最小限に抑える。

2022年度

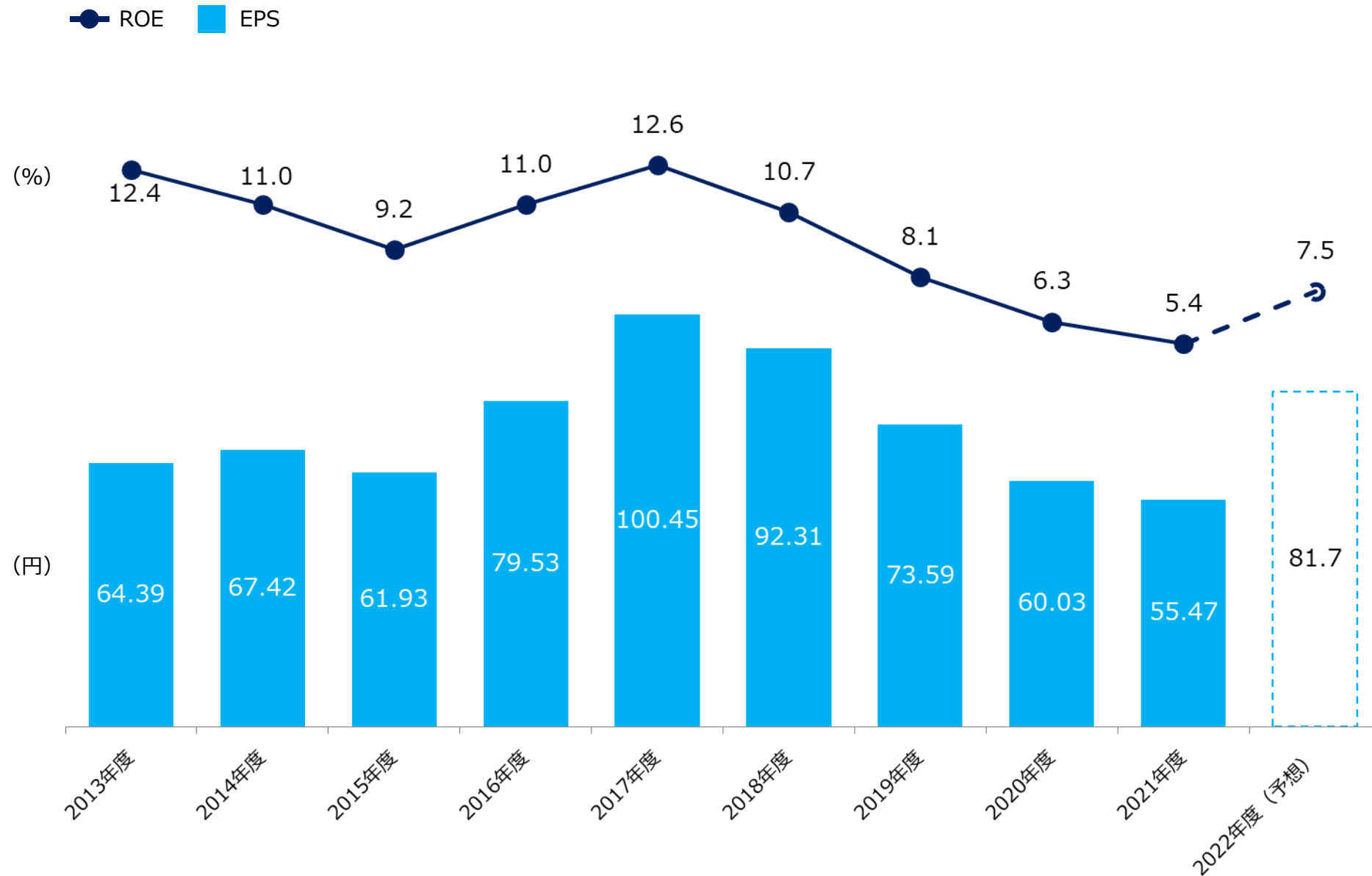
工場のネットワーク環境整備や省エネ対策およびオレンジベーカーリーの工場設備の投資を実施予定。

設備投資額・減価償却費

研究開発費

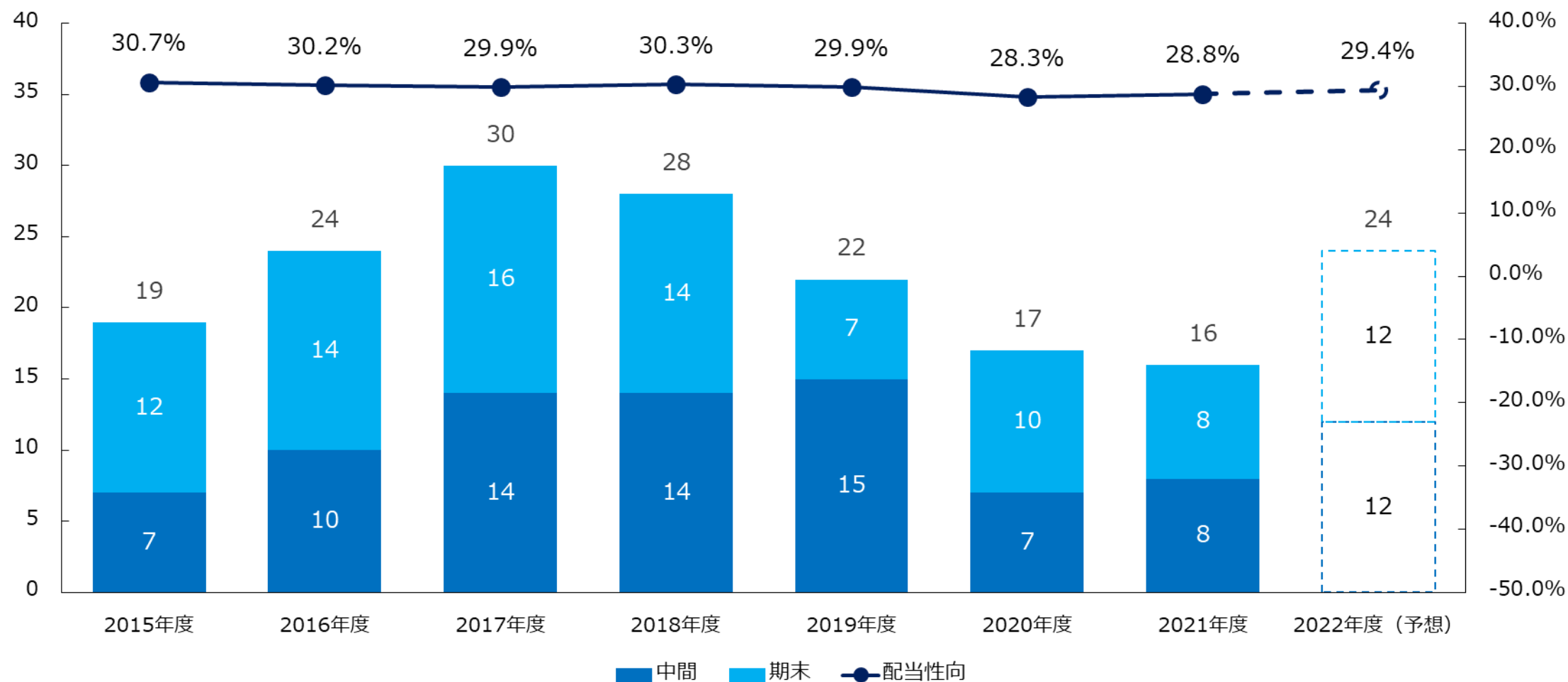


ROE・EPSの推移



配当方針

連結配当性向の目標を30%を目途とし、業績等を総合的に勘案し継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針とする。

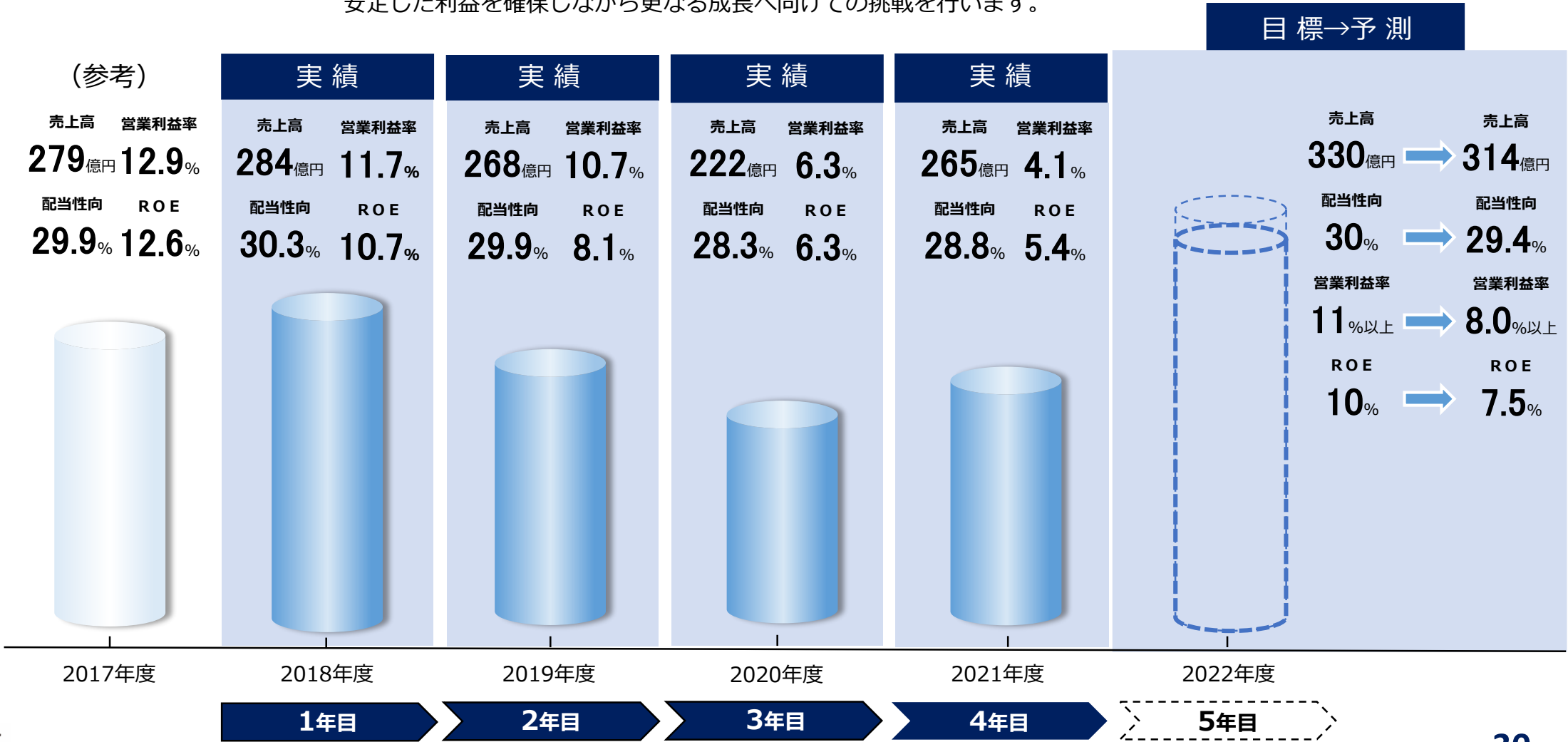


1. 2021年度 連結決算概況
2. 2022年度 連結業績予想
- 3. 中期経営計画 進捗状況
(2018年度～2022年度)**
4. サステナビリティへの取り組み

中期経営計画 進捗状況

“変革への挑戦”

中期経営計画期間は、
『レオングループの次なるステップへの変革の時期』と位置づけ、
安定した利益を確保しながら更なる成長へ向けての挑戦を行います。



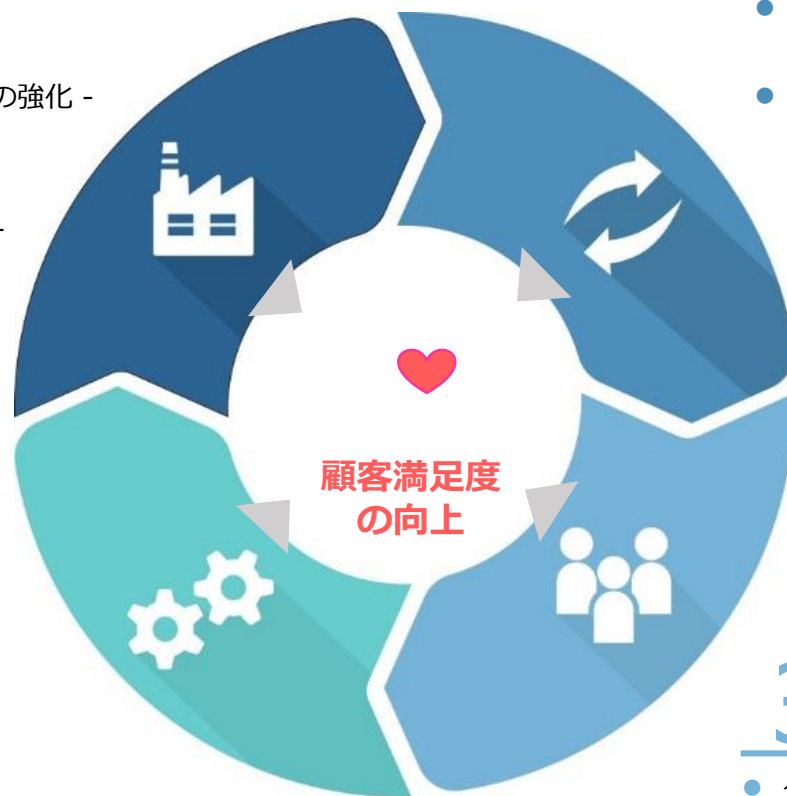
中期経営計画 4つの重点施策

1 生産（開発）体制の強化 - 収益基盤・技術力 -

- 受注～生産の体制を見直し、生産性を向上させる。
 - 品質管理の徹底、購買力の強化 -
- 開発設計体制を強化する。
 - モノづくり力の強化、コスト競争力の強化 -

2 販売体制の強化 - グローバル活動体制の整備 -

- エンジニアリング事業の拡大をする。
 - ソリューションビジネス強化 -
- 海外販路拡大をする。
 - 代理店網の整備、営業体制の強化 -



4 業務環境整備

- 基幹システム刷新等による業務効率化及び生産性向上を推進する。
- 間接部門の現場力を強化する。 - 従業員満足度の向上 -

3 人材育成

- グローバル人材を育成する。
- 技術力・提案力を強化する。
- 次世代経営者を育成する。
 - 人材育成プログラムの確立 -

中期経営計画の進捗状況・来期に向けて

1

生産（開発）体制の強化 – 収益基盤・技術力 –

食品加工機械に求めるニーズは国や地域により多様化し、機械の用途も多種多様化している。「品質・納期・コスト管理」を徹底し競争力を強化する。

■ 2021年度

主な実施内容

- 研究開発機種では、ツインデバイダの生産能力や秤量制度アップの性能確認テストを完了。
- 電気設計では、プログラムをモジュール化したことで設計の効率化及び信頼性を向上。
- 基幹システム刷新により、生産性の改善が実現。
- オレンジベーカーリー第三工場では、ロボットによる三角折りシステムを導入し、フル稼働中。

■ 2022年度

主な実施内容

- 設計標準化を推進し機械性能とコスト競争力を高め、省エネルギー対応や食品ロス削減など、環境に配慮した商品開発を行う。
- 新たな生産システムの導入と組織の改革を実行し、収益基盤の強化を図る。
- オレンジベーカーリーにおいては、人件費高騰の対策としてロボットの拡充による製品成形部の自動化を進める。

中期経営計画の進捗状況・来期に向けて

2

販売体制の強化 – グローバル活動体制の整備 –

さらなる成長に向けて海外市場拡大・社会課題の解決・環境変化への対応が求められる今日、販売体制強化に取り組む。

■ 2021年度

主な実施内容

- 国内・海外の顧客との商談においてWeb方式と対面方式のハイブリッド化を推進し、営業効率向上。
- 全世界での営業網強化を行い、厨房設備や食肉業界に強い販売協力店との連携も強化。中国においては食肉・冷凍食品に強い販売代理店の模索。
- レオン機を含むトータルエンジニアリングの強化。

■ 2022年度

主な実施内容

- 新しい顧客（流通異業種等）への販路拡大。
- 機種別営業から業種別営業への転換。
- 全世界での代理店強化とトータルエンジニアリングの構築。

中期経営計画の進捗状況・来期に向けて

3

人材育成

人材は企業の重要な資産であると捉え、当社の持続的成長を支え維持していくグローバル人材の確保と育成のために人材育成基盤の強化を図る。

■ 2021年度

主な実施内容

- 2021年度より研究開発専門職の採用を開始。通年採用は海外の大学卒業者を10月に1名採用。
- グローバル人材育成の為に海外研修制度の再構築を行い、2022年度の実施計画を立案。
- 女性に関する目標値の設定。

■ 2022年度

主な実施内容

- 研究開発職および通年採用の継続。
- グローバル人材育成の研修制度の実施。
- 複線型人事制度の構築およびリーダー育成研修制度の確立。
- グループ全体でコンプライアンス教育を徹底し、ガバナンス強化を図る。

中期経営計画の進捗状況・来期に向けて

4

業務環境整備

中期経営計画の4つの重点施策を実現するため、各領域における業務効率化・生産性向上・人材育成等を進めることが必要。

■ 2021年度

主な実施内容

- 顧客管理システム(CRM・SFA)を導入し基幹システムと連携して運用を開始。
- 設計及び生産のDX化を促進する為、製品ライフサイクル管理システム(PLM)とその情報を活用した製造実行システム(MES)の選定と要件定義を実施。

■ 2022年度

主な実施内容

- 顧客管理システム(SFA)とホームページ、SNS連携による営業の効率化を実施。
- 顧客管理システムと基幹システムと連携による経営判断材料の見える化。
- 製品ライフサイクル管理システム(PLM)の導入と製造実行システム(MES)の導入準備の実施。

1. 2021年度 連結決算概況
2. 2022年度 連結業績予想
3. 中期経営計画 進捗状況
(2018年度～2022年度)
4. サステナビリティへの取り組み

サステナビリティの基本方針

当社は、社是「存在理由ある企業たらん」のもと、当社独自の技術やサービスを通じて全世界の食文化の継承と発展に貢献することで社会課題や環境問題の解決に取り組めます。

また、「経営理念」や「行動指針」に基づき適正な企業統治を通して、社会から信頼される企業として持続的な企業価値向上を目指します。

そのうえで、「環境」「人材・組織」「技術」の3つを当社の重要課題として掲げ、レオンサステナビリティを推進してまいります。



サステナビリティへの取り組み

Environment

-環境への貢献-

- 脱炭素の推進
- 2050年度までに温室効果ガス排出量実質ゼロとするカーボンニュートラルの実現を目指す

取り組み例.1



再生可能エネルギー由来電力の導入 (本社・上河内工場)

温室効果ガス排出量については、2050年度までに実質ゼロとするカーボンニュートラルを実現することを目指しています。その一環として、2022年2月から本社・上河内工場の電力全てを東京ガスが提供する非化石証明付き再生エネルギー由来の電力にしております。このことにより、年間約1,800tのCO₂が削減される予定です。



東京ガスより発行された
非化石証書

Social

-ダイバーシティ-

- 従業員の健康と安全確保
- グローバル人材の育成
- 働きやすい職場環境作り

取り組み例.2



女性活躍の推進

当社は、一人ひとりの多様な視点や価値観を尊重することが持続的な成長と企業価値向上に重要なことと考えています。まずは、女性の活躍の場を広げるため、2030年度までの目標値を掲げました。

	2020年度 (2021年3月31日時点)	2030年度目標値
女性管理職／全管理職	3%	10%
女性採用／全新卒者	11%	20%
女性／全社員	16%	19%



Technology

-技術開発-

- 環境や社会に配慮したソフト技術の開発
- 食品ロスの軽減、エネルギー消費量削減を目指した食品機械の研究開発



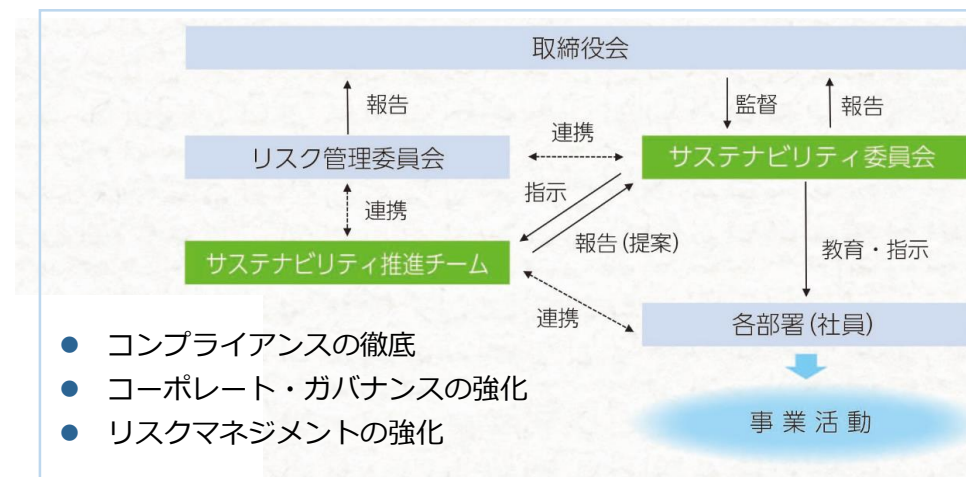
Governance

-健全な経営の実行-

2021年10月にサステナビリティ委員会を設置し、ガバナンス体制を強化

するとともに、サステナビリティ推進チームが中心に各部署の取りまとめを行い、

各課題に対して、目標の設定と具体的な行動計画を策定する取り組みを進めてまいります。



社 是

“ 存在理由のある企業たらん ”

- 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- 世界の食文化に貢献する

「存在理由のある企業たらん」は、
レオングループが創業以来持ち続けている社是です。
これまでも、これからも、存在理由のある企業であり続けることが
レオングループの大切にしていることです。





《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（現 名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的风险や不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。

添付資料

レオングループの概要

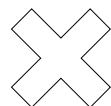
会 社 名	レオン自動機株式会社（RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.）
所 在 地	栃木県宇都宮市野沢町 2 番地 3
代 表 者	代表取締役社長 小林幹央
設 立	1963年3月15日
事 業 内 容	食品加工機械製造販売事業、食品製造販売事業
資 本 金	7,351百万円
決 算 期	3月31日
株式の上場	東証プライム上場
従 業 員 数	2021年度 個別：675名 連結：1,095名
関連子会社	国内：2社 海外：3社
※ 国内シェア	包あん機 90%、自動化シートライン 90%以上
※ 総保有特許数	国内 138件、海外 352件（2022年3月31日 現在）

ハード・ソフトを交えた販売活動が当社の強み

ハード

(確かな技術力)

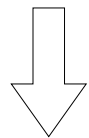
- ◆ 自社独自技術の機械を開発する能力
- ◆ 自社製品の改良によるさらなる価値提供



ソフト

(サービス体制)

- ◆ 顧客要望を情報で実現するソフト、開発能力
- ◆ 自社製品で生産される食品の提案による価値提供
- ◆ お客様の生産現場をサポートするメンテナンス力



お客様と強固な関係を実現

食品成形機

包あん機やその周辺機で構成された単体



CN700



セットパンナー



製パンライン等

製パンラインを主とした自動化ライン等



FEライン



VMシステム



VX222

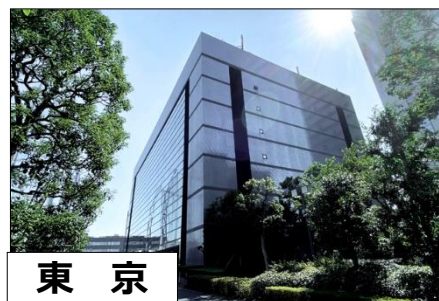


機械は国内で生産、販売は日本全国を網羅

栃 木 県



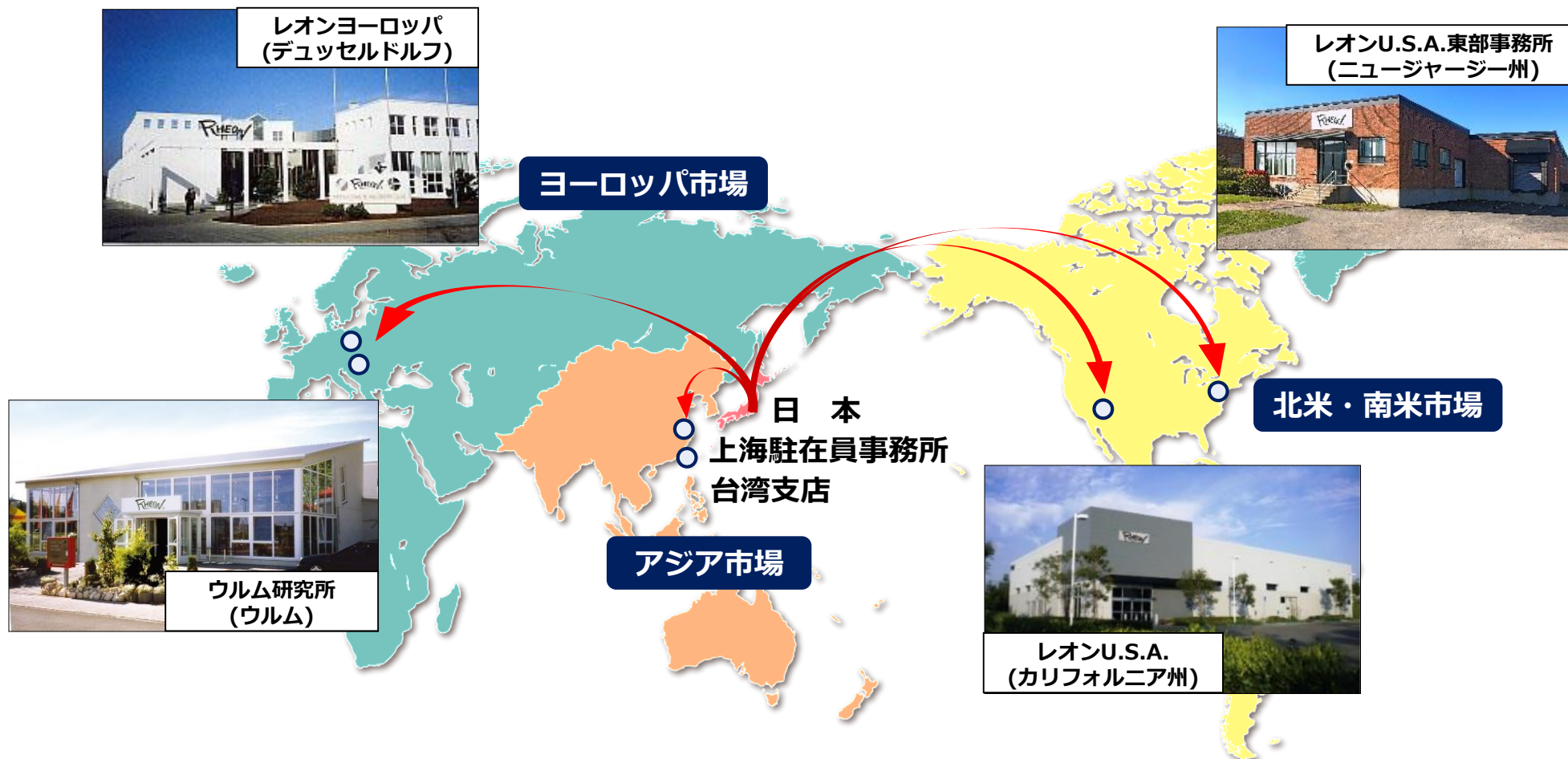
営 業 所



出 張 所



海外の販売子会社を通して（アジアは本社直販）
世界127の国と地域に機械を販売



オレンジベーカリー

カリフォルニア州

本社・第1工場



第2工場



第4工場



ノースカロライナ州

第3工場



- ・ レオン機の実験工場として設立し、クロワッサンなど付加価値の高いパンを製造

- ・ 主に成形冷凍のパンを全米のベーカリー、スーパー、レストラン等に販売

(有)ホシノ天然酵母パン種

神奈川県

本社・町田工場



秦野工場



- ・ ホシノ天然酵母パン種を製造販売